

音楽 I

総合学科

教 科	芸術	単位数	2 単位	対象	1 年次	選択群	
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)			副教材等		履修	必修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>歌唱、器楽、鑑賞、創作など様々な形態での音楽活動を行います。活動する上で必要な基本的な音楽理論(楽典)を理解した上で、日本に限らず世界各国の音楽に親しんでいきます。選択者数によって授業内容を変更させることがあります。</p>			<p>・基本的な楽典を理解できる。 ・音楽に対する興味・関心を深め意欲的に活動できる。 ・音楽的感性・技能を身に付け、創造的に表現し、根拠を持って批評することができる。</p>			<p>・音楽に興味があること。 ・音楽に関係する進路を検討している生徒。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	・初エンタテイン ・歌唱 ・ポピュラーソング	・楽典(年間通して) ・校歌 ・Lemon、負けないで	・読譜、記譜 ・暗唱 ・発声法、姿勢、記号の意味			
	5月	・イタリアの音楽 (歌唱、鑑賞)	・'O sole mio ・Caro mio ben	・歌詞の解釈、表現の工夫 ・カンツォーネについて			
	6月	・器楽	・ギターに挑戦 ・弾き歌い	・ギター音楽の鑑賞、ギターの構造 ・調弦、奏法、音階練習、練習曲 ・器楽アンサンブルについて			
	7月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽史	・各時代ごとの鑑賞			
	9月	・器楽、鑑賞	・篠笛	・姿勢、記号の確認 ・運指、タンギング			
	10月	・諸民族の音楽 (鑑賞)	・諸民族のリズム、楽器	・各地域ごとに鑑賞			
	11月	・ドイツの音楽 (歌唱、鑑賞)	・Heidenröslein	・発声法、姿勢の実践			
	12月	・歌唱 ・アンサンブル	・2重唱「翼をください」 ・Plymouth Rock	・ハーモニーの練習 ・読譜、記号の確認			
	1月	・鑑賞、音楽史	・西洋音楽の鑑賞 歌劇「カルメン」	・歌劇について			
	2月	・創作	・創作、編曲	・記譜法の基礎			
	3月	・合唱	・合唱	・パート練習 ・合唱			
	学習方法	<p>【予習】 次の時間に学ぶ作品の譜読みや、記号の意味などを調べておきましょう。 【授業】 定期考査を実施しないため、授業での取組が重要です。活動が中心ですから、積極的に楽しく活動しましょう。 【復習】 実技は個人練習が必要な場合があります。また、普段からなるべく様々なジャンルの曲を聴くようにしてください。</p>					
評 価 の 観 点 ・ 評 価 規 準 ・ 評 価 方 法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	音楽の基礎(楽典)を身に付け、曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。		主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
※ 上記の観点を基に、2・3学期とも評価する。 A:主に考査による観点別評価 B:主に授業等の活動による観点別評価		実技点:7割 B:3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		実技点:7割 B:3割 実技点は授業中の実技テストや活動点。Bは、授業態度(発表等)、積極性、活動意欲、提出物、出欠状況		1学期、2学期、3学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価。	
備考	・各自でファイルを用意してください。						

美術 I

総合学科

教 科	芸 術	単位数	2 単位	対象	1 年次	選択群	
使用教科書	美術 1 (光村図書出版)			副教材等		履修	☑履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>絵画、彫刻、デザインなど、美術の様々な分野の基礎的な創作活動を行います。自分が感じたこと、考えたことを作品に表現したり、鑑賞活動を通して作品から感じたことを言葉で表現したりするなど、美術に親しむ体験をしていきます。</p>			<p>・鉛筆、絵の具、筆など基本的な用具の使い方を理解できる。 ・基本的な美術の感性・技能を身に付け、創造的に自己表現することができる。 ・友人の作品から良さを感じ取ることができる。</p>			<p>・音楽 I、書道 I を選択する場合は同時に履修することはできません。</p>	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	・リエンテジョン ・デザイン	・美術 I の学習と意義 ・鉛筆削り	・美術 I の年間の学習について ・デッサン用の鉛筆をナイフで削る			
	5 月	・絵画	・鉛筆デッサン (基本シェイプ) ・鉛筆デッサン (人物イラスト)	・鉛筆の基本的な使い方 ・基本シェイプの理解と使い方 ・サークルドローイングとジェスチャードローイングの技法を学ぶ			
	6 月	・デザイン		・人物などの複雑な形態のものの描き方を学ぶ ・色彩の基本理論について学ぶ ・色彩と基本シェイプを利用した画面構成を学ぶ			
	7 月	・デザイン	・色彩について ・色相環のイラスト	・夏休みの宿題のアイデアを練る			
	9 月	・鑑賞	・鳥獣人物戯画	・絵巻物の表現の面白さや工夫について学ぶ			
	10 月	・デザイン	・線遠近法を使用したペン画	・線遠近法の基本原理を理解する ・線遠近法のグリッド線を活用して描く ・仕上げ、相互鑑賞			
	11 月	・絵画	・リノリウムカットによる版画	・リノリウムカット版画の技法を理解する ・線や色面の効果を生かしながら彫る ・刷り、相互鑑賞			
	12 月	・鑑賞	・作家の人生と作風 パブロ・ピカソ	・ピカソの生涯や作品を知り、新たな表現を追求する姿勢を感じ取る。			
	1 月	・デザイン	・カトラリー	・実用性と装飾性を考えアイディアスケッチをする ・全体と細部の関係を意識しながら造形する ・仕上げ、相互鑑賞			
	2 月	・鑑賞 ・映像	・仏像の美 ・アニメーション (人物を走らす)	・四天王立像の造形表現に親しむ ・アニメーションの基本原則と制作手順を学ぶ ・人物の動きの表現について学ぶ			
	3 月	・まとめ	・美術 I の 1 年を振り返る	・1 年間の反省と感想			
学習方法	<p>【予習】 準備物を忘れないようにしましょう。作品のイメージを考えておきましょう。 【授業】 作品制作が中心になります。作品は、上手い・下手よりも、一生懸命取り組んだかどうか重要です。集中して制作活動に取り組み、自分の気持ちを作品で精一杯表現しましょう。 【復習】 作品の進み具合が他の人より遅れている場合は、授業外でも制作を進めておきましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	・創造的な表現をするために、表現材料や表現形式を選択し、効果的に生かす技能を身に付けているか。		・感性や想像力を働かせて自然や身の回りの造形、芸術作品などのよさや美しさを感じ取り、主題を生成し、表現を構想しているか。		・美術を愛好し、意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み、その喜びを味わい、創造的な表現と鑑賞の能力を身に付けようとしているか		
評価方法	評価方法		第 1・2 学期		第 3 学期		年度末
	※ 上記の観点を基に、2・3 学期とも評価する。 A：主に査査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価		実技点：7 割 B：3 割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		実技点：7 割 B：3 割 実技点は作品点で、Bは、授業態度、自己評価、出欠状況等を評価します。		1 学期、2 学期、3 学期の成績を統合し、夏季、冬季の課題も含め、年間の学習成績として評価します。
備考							

書道 I

総合学科

教科	芸術	単位数	2 単位	対象	1 年次	選択群	
使用教科書	書道 I (東京書籍)			副教材等		履修	必履修・選択
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路	
<p>「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」について表現方法を学び、実際に筆で書いていきます。「漢字の書」「仮名の書」については主に古典の臨書によって練習します。2 学期には川高祭に出品します。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の用筆、運筆、字形の特徴をとらえて臨書ができる。 ・線質、字形、全体構成などを工夫して自己表現ができる。 ・書を愛好する心情や態度、更に鑑賞能力を身に付ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ・1 年次生は音楽 I・美術 I・書道 I の中からの選択です。 	
学 習 の 年 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4 月	一 漢字の書	1 用具・用材 (文房四宝)	<ul style="list-style-type: none"> ・文房四宝の特性の理解とその選択による効果的な表現 ・良い姿勢と正しい執筆法 ・書道 I の目標と書写との関連 ・いろいろな線による表現の広がり (起筆の穂先の向き違いによるさまざまな線の表現など) ・書体の特徴と変遷 ・楷書の用筆法・運筆法・結構法 ・楷書の成立と唐の四大家 ・古典に基づく学習 (臨書) ・臨書・鑑賞 「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」「雁塔聖教序」など ・自分の落款印の作成と効果的な押印 ・行書の用筆と字形、特徴 ・臨書・鑑賞「蘭亭序」「風信帖」 ・隷書の基本用筆と特徴 ・臨書・鑑賞「曹全碑」「乙瑛碑」「木簡 ・創作ノートの活用 			
	5 月		2 姿勢・執筆法				
	6 月		3 書写の確認				
	7 月		4 書写から書道へ				
	9 月	〇川高祭に向けて 二 仮名の書	5 漢字の成立と変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構想を練る (臨書か創作か、語句と書体の選定、作品の規模、全体構成など) ・作品制作、作品の完成と落款 ・展示準備 ・仮名の成立、仮名の種類及び仮名用の筆・墨・紙 ・基本的な筆使い (縦の線・横の線、転折・円運動・結び) ・「いろは歌」を書く ・連綿のリズムや流れ ・臨書と鑑賞「高野切第一種」 			
	10 月		6 楷書				
	11 月		7 落款と篆刻				
	12 月		8 行書 9 隷書 10 創作 (学んだ古典の特徴を かして創作)				
	1 月	三 漢字仮名交じりの書	1 いろいろな線による表現の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・線質の調和 (言葉や意図に合った表現を考える) ・紙、墨色、墨量、筆による変化と効果的な表現方法 ・字形、文字の大きさと全体構成 ・いろいろなバリエーションでの表現 			
	2 月		2 用具用材による表現の変化				
	3 月		3 紙面構成のバリエーション 4 創作				
4 月	四 生活の中の書	1 硬筆 2 実用の書	<ul style="list-style-type: none"> ・便せんの書式、葉書・封筒の書式 ・贈答用語の書き方 				
学習方法	<p>【予習】 書道用具を忘れないように確認しておきましょう。</p> <p>【授業】 姿勢、執筆法に気をつけて、表現を工夫しながら意欲的に書いていきましょう。また、古典作品や友人の作品も参考にし、自己表現に生かしていきましょう。</p> <p>【復習】 普段から身の回りにある書や手書き文字に興味をもち、学習に取り入れましょう。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な線質の表現と用筆、運筆の関係を理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・古典の書の美しさを感じ、その技法を学び、普遍性のある表現力を探求する。 ・字形や文字の大小、全体の構成など表現を工夫する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・書を愛好し、書写能力の向上に努める。 ・意欲的・主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わう。 		
備考	評価方法		第 1・2 学期		第 3 学期		年度末
	<p>※ 上記の観点を基に、2・3 学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>作品点：6 割 B：4 割</p> <p>B は授業態度、提出物、授業準備等</p>		<p>作品点：6 割 B：4 割</p> <p>B は授業態度、提出物、授業準備等</p>		1・2・3 学期の平均

